

# 令和 2 年度 城山西小学校 学校評価書

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重」の教育を基礎とし、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で、思いやりのある豊かな心をもち、確かな学力を身に付けた社会の一員としてたくましく生きる児童を育成する。

- 情操豊かで、おもいやりのある子供（やさしく）
- 自ら学び、よく考える子供（かしこく）
- 健康で、やりぬく子供（たくましく）

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

平成17年度より小規模特認校に指定され、特色ある教育活動を推進してきた結果、学校統廃合の危機を脱することができ、伝統ある学校として存続できている。

今年度も児童数を維持するために、地域連携をキーワードに、「小さな学校だからこそできること」をコンセプトにした本校の特色ある教育活動を推進する。

教職員の積極的な学校経営への参画のもと、第2次宇都宮市学校教育スタンダードの「誰もが安心して学べ、活力あふれる学校」の実現を図るために、城山地域学校園の小中一貫教育における教職員や児童・生徒の交流を生かしながら、「自他を尊重し、郷土に愛着をもち、諸活動を通して互いに高め合う児童生徒の育成」に努めていきたい。

本校の具体的な取り組みとしては、「一人一人を大切に授業」を中心に、5つの公約「会話科の継続・充実」「文化人の先生方との授業実践」「地域との確かな連携」「食農体験を通じた食育の推進」「放課後活動（こがし桜スクール）の運営」を継続しつつ、以下の3点を柱として全教職員で指導に努めていきたい。

- (1) 「会話科」の継続・充実に努め、英会話の時間や外国語活動、外国語科、ことばの時間で培う表現力やコミュニケーション力を他教科や日常生活に生かせるように努める。特に外国語教育は、中学校への学びの連続性を持たせる指導について研究を推進する。
- (2) 食農体験を基にした「食育」を推進し、地域の協力を得ながら、食と農に関する学習活動や体験活動を展開する。給食農園の食材や地産地消の食材を給食に取り入れ、教職員・児童全員で食する給食の時間を有効利用する。
- (3) 妻木律子先生と連携した「体幹を鍛える運動」や各種運動検定の充実により「体力の向上」を図り、運動を楽しませることを通して生涯体育につなげていきたい。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校・地域・行政が一体となった「新たな学校の創造」を推進するため、教職員の適材適所を図り、本校の実情に即した教育課程の編成と実践に努める。また、教育者としての使命感と愛情をもった教師力の向上に努めるとともに、業務の効率化を図り、労働時間の適正化に努める。 **(学校運営の適正化)**
- (2) 児童一人一人のよさを認め励まし、自己肯定感を育み、居がいのある学校・学級づくりに努める。 **(学級経営の充実)**
- (3) 全教職員の共通理解のもと、児童・保護者と教職員との信頼関係を深め、情操豊かな教育環境と縦割り班における異学年とのかかわりを大切に、他人を思いやるこころ豊かでたくましい児童の育成に努める。 **(豊かなこころの育成)**
- (4) 学力の基礎・基本である読む力・書く力・聞く力・話す力の確実な定着を図り、体験的な学習や問題解決的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自ら学び自ら考える力の育成に努める。 **(学習指導の充実)**
- (5) 進んで運動に親しみ継続できるような手立てを工夫するとともに、保健・安全指導の充実に努める。 **(体力向上と保健安全教育の充実)**
- (6) 学校・家庭・地域・行政と連携を密にしながら、小規模特認校として魅力ある開かれた学校づくりに努める。 **(魅力ある学校づくりの推進)**

[城山地域学校園教育ビジョン] とともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

#### 4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び同施行規則，小学校学習指導要領，栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」宇都宮市の教育の指針（うつのみや“いきいき学校”プラン-子どもに夢，学校に活力，地域に絆-第2次宇都宮市学校教育スタンダード・宇都宮元気っこプロジェクト）等の示すところに従い，公教育の立場を堅持し本校の教育目標達成のため，調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 児童の生きる力を育むこと・成長するための基盤を培うことを目指し，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること，問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力を育むことの双方のバランスを考慮して教育課程を編成する。また，家庭での学習習慣が確立できるように家庭との連携を密に図るようにする。
- (3) 道徳性の育成は，「特別の教科道徳」を要として学校教育活動全体を通して行うとともに，家庭・地域社会との連携を深め，児童の発達段階に考慮して適切な指導が行われるよう，教育課程を編成する。また，指導にあたっては「いきいき栃木っ子3あい運動」や「宮っ子の誓い」を通して道徳性が培えるよう工夫する。
- (4) 健やかな心身の育成を図るために，体育・健康に関する指導または学校教育活動全体を通して行うとともに，健康・安全で活力ある生活を営むために必要な資質や能力を育て，児童の心身の調和的な発達が図れるよう教育課程を編成する。
- (5) 創立145年の歴史と伝統と小規模特認校16周年を迎える実績と特色を踏まえ，児童の実態や学校の特色，地域のもつ豊かな教育力を生かして，家庭や地域社会との連携を図りながら，学校の特色を生かした教育課程を編成する。
- (6) 保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深め，連携及び協力が推進できるように学校運営の状況に関する情報を提供するように努める。

#### 5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【 学 校 運 営 】
- ・職員研修を充実し，教職員の資質向上の推進
  - ・学校・家庭・地域・行政と一層連携し，小規模特認校としての開かれた特色ある学校づくりの推進
- 【 学 習 指 導 】
- ・確かな学力を身に付け，共に学びあう子どもの育成
  - 家庭学習の習慣化（宿題プラス1）
- 【 児 童 生 徒 指 導 】
- 規範意識を身に付け，自分のよさを生かしながら自信をもって行動する児童の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】
- ・健康・体力の向上を目指し，進んで活動する児童の育成
  - 中学校進学をスムーズに行えるよう，中学校の部活動を見学する機会の確保
  - 集団行動や各種検定など中学校での活動を見据えた，3小学校で共通した取組

#### 6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目(R2)	主な具体的な取組	方向性	評価
	<p>A1 児童は，進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に話をしっかり聞いたり，発表したりするなど，進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「城西小よいこの一日学習編」をもとに，基本的な学習態度について共通理解を図りながら指導に当たる。</p> <p>② 児童の主體的な学びとなる授業展開を工夫する。</p> <p>③ 会話科の授業を充実させ，よく聴き分かりやすく発表する技能を高める。</p>	B	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 95.1 保護者 92.7 教職員 100.0 ・肯定的回答は昨年とほぼ同じであった。 ・「城西よいこの一日学習編」をもとに，保護者や児童・教職員が共通理解をはかりながら指導にあたった。</p> <p>【次年度の方針】 ・全国学力学習状況調査をはじめとした各種調査結果の分析をもとに，指導にあたっていく。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目 指 す 児 童 の 姿</p>	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 道徳の時間の指導を要とし、各教科領域、特に児童指導との連携をとりながら、教職員が共通理解のもとに足並みをそろえて児童の規範意識を高めていく。 ② 縦割り班での活動や共遊の時間を大切に、児童同士あるいは児童と教師が豊かな心のふれあいができるようにする。 ③ 会話科(ことばの時間)等の学習を通して、コミュニケーション力を高め、互いの気持ちを伝えられるようにする。 ④ 盲学校との交流を継続し、心のふれあいを通して、障がいに対する理解が深められるようにする。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 89.3 保護者 93.8 教職員 100.0 ・道徳の授業を中心に、教職員が日常的に児童へ思いやりの心の大切さを伝えてきた。 ・コロナ禍の影響で様々な学校行事を中止や縮小する中、活動を工夫することで児童同士が豊かな心のふれあいを感じる体験を積み重ねることができた。 ・盲学校との交流では、ビデオレターのやり取りを通して、障害に対して理解を深めた。 【次年度の方針】 ・次年度も道徳の授業を中心にしながら、学校教育全体で思いやりの心を育てていく。 ・コロナの感染状況を見ながら縦割り班活動や盲学校との交流活動を工夫して実施する。</p>
	<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「城西小よい子の一日」を見直し、教職員が足並みをそろえて、粘り強く児童を指導していく。 ② 児童が秩序ある安全な学校生活を送れるように、年間を通して学級の行動目標を決めて指導していく。 ③ 学級だけでなく週に1度の一斉下校や集会・朝会等の場を活用して、児童のよさを学校全体でほめることで、きまりを守る大切さを理解させ、やる気を引き出していく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 84.5 保護者 97.9 教職員 100.0 ・「城西小よい子の一日」について教職員が共通理解し、足並みをそろえて児童への指導を重ねてきた。 ・給食の時間には校内放送を利用して、乱れがちなきまりやマナーについて確認してきた。 【次年度の方針】 ・次年度も「城西小よい子の一日」については周知徹底していくとともに、細かいルールについてはその都度教職員で共通理解を図り一貫性のある指導ができるようにする。 ・全体の場では良い点を褒めることに重点を置きながら、指導の徹底を図る。</p>
	<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「いつでも・どこでも・だれにでもさわやかあいさつ」の合言葉のもと、児童会を中心に城山地域学校園で連携したあいさつ運動を継続する。 ② 登校指導の場では学校・地域・保護者で連携を図り、子供たちが気持ちよくあいさつができる環境を整えとともに、あいさつの大切さを伝え、広げていく。 ③ 定期的に家庭でのあいさつ状況を振り返らせ、家族とのあいさつの大切さを伝えていく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 99.0 保護者 85.3 地域 100.0 教職員 100.0 ・肯定回答率は地域住民と教職員が100%、児童が99%であった。保護者については昨年度を上回ったものの、他に比べて割合が低い。 【次年度の方針】 ・児童と地域、教職員に比べ、保護者の肯定回答率が低いことから、家庭との連携を強化する。</p>

<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 漢字や計算、運動の検定や各大会などの教育活動を設定することで、児童が自ら目標を持って、進んで活動できるようにする。</p> <p>② 学期ごとに、学習と生活のめあてを立てて、その達成状況を学期末に振り返る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 84.5 保護者 87.5 教職員 90.9 ・保護者の肯定的回答は増加したが、教職員および児童の肯定的回答は10ポイント近く減少した。 ・年度当初の臨時休校があり、学校生活と学習のリズムの確立に時間がかかったため、粘り強く取り組むことへの達成感が低かったと思われる。</p> <p>【次年度の方針】 ・具体的な取り組みの結果に対して、児童を称賛する場を設け、意欲の維持と向上を図っていく。</p>
<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 感染症予防を意識した新しい生活様式における基本的な生活習慣の定着を図る。</p> <p>② 健康の保持増進を意識した生活を送ることができるよう、定期健康診断の結果を生かした指導や、バランスのとれた食事についてなど具体的な指導に努める。</p> <p>③ 避難訓練や交通安全教室などを計画的に実施し、安全を意識した生活ができるようにしていく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 89.3 保護者 95.8 地域 100.0 教職員 100.0 ・教職員は様々な形で指導や啓発活動を行っているが、児童にとってはまだまだ定着されていないようである。</p> <p>【次年度の方針】 ・感染症予防や生活習慣チェックでの健康の保持増進のための活動、避難訓練や交通安全などに取り組んでいる事が、自分の健康に関係することと捉え、自ら実践できるように取組んだチェックシート等で振り返りをしっかりとやる。</p>
<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① キャリア教育を中心に、学校の教育活動全体で、自分の夢や目標をもちそれに向かって努力する大切さや喜びを実感できるようにする。</p> <p>② 文化人の先生や地域の方、保護者との多様なかわりを通して、他者と協力・協働していくことよさに気付かせ、社会に参画していくとする心を育てる。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 84.5 保護者 87.5 教職員 90.9 ・昨年度と比較すると、保護者の肯定的回答は7ポイント増加したが、教職員、児童ともに9ポイント減少した。 ・臨時休業や感染症対策の影響で、様々な活動に制限があり、目標に向かって他者と協力・協働することが難しかったと思われる。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続きキャリアパスポートを活用し、自分の夢や目標を学年に応じて捉えられるよう指導する。</p>
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業を中心に、英語を使ってコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるよう、指導を充実させる。</p> <p>② 英会話タイムの充実を目指し、年に数回校内研修を行い、教職員の指導力の向上に努める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 94.2 教職員 100.0 ・児童の肯定的回答率が、昨年度より3.8ポイント減少した。 ・外国語科になり、昨年度までの指導内容に変更があったことで、特に高学年児童にとっては戸惑いがあったと思われる。</p> <p>【次年度の方針】 ・高学年の教科書の内容も加味しながら、本校ならではの英語に特化した年間指導計画に基づいて指導を続け、必要に応じて加除訂正を行い、年間指導計画の改良を進めていく。 ・英会話タイム・授業の充実を目指し、来年度も定期的に校内研修を実施する。</p>

<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 社会科を中心に生活科や総合的な学習の時間に、宇都宮市や城山地域の、地理や産業・文化財などについて学ぶ機会を充実させる。 ② 宇都宮学の副読本を活用して家庭とも連携しながら、自分たちの住んでいる地域や、宇都宮のよさを実感できるよう指導していく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 83.5 保護者 71.9 教職員 90.9 【次年度の方針】 ・保護者の肯定的回答率が全質問項目の中で一番低い数字であった。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」を中心に、家庭と連携しながら、宇都宮のよさを実感できるよう指導していくとともに、児童一人一人が、具体的な宇都宮の良さを言えるようにする。</p>
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 調べ学習や発展的な内容の学習の時間において、ICT機器や図書資料を有効に活用した活動ができるよう、指導を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 94.2 保護者 89.8 教職員 100.0 ・国語や総合的な学習の時間を中心に、パソコンルームや学校図書館で調べ学習を行った。 【次年度の方針】 ・GIGAスクール構想の開始にあたり、1人1台の端末を学びに効果的に生かせるように、教職員が研修を行ったり、タブレットを使った授業実践を蓄積したりする。 ・授業の中で、児童自身が学習の目的に応じてICT機器や図書等を選ぶ場面を多く設定するようにし、情報メディアを有効に活用する力を育む。</p>
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 地域の「古ざくら会」との農園活動・昔遊び・ふれあい給食などを通して、高齢者との交流を、年間を通して深めていく。 ② 活動の後や「感謝の会」などにおいて、協力して下さることへの感謝の気持ちや、いたわりの気持ちを育むようにする。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 89.3 保護者 93.8 教職員 100.0 ・今年度は高齢者との交流行事が難しい状況であったが、古ざくら会にお手伝い頂きながらサツマイモの収穫を行った。また、道徳の授業や人権月間等で様々な立場にたって物事を考え、支え合う大切さについて指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、地域の高齢者との桜まつり、運動会等の行事や「古ざくら会」との農園活動、昔遊び、ふれあい給食などの活動を通して、高齢者との交流を充実させたい。</p>

	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 日々自分たちが行っている、ごみの分別・リサイクル・節電・節水や、PTA資源回収などの活動が、身の回りだけでなく地球環境の維持につながっていることを意識させる。</p> <p>② 古賀志山清掃登山や裏山探検などを理科や社会、総合の授業と、関連させて、身近な自然を実感させ、自然の大切さを意識できるような教育活動を展開していく。</p> <p>③ 本校は土砂災害警戒区域内にあることを意識させ避難訓練などで指導を継続していく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 88.3 教職員 77.3</p> <p>・児童の肯定的回答率はほぼ変わらず、教職員の肯定的回答率が4.5ポイント下がった。</p> <p>・今年度は、給食の時間のごみの分別が制限されたり、全校で実施している古賀志山清掃登山や奉仕作業が中止になったりしてしまっただので、児童に意識させる機会が減ってしまった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・「持続可能な社会」とはどんな社会なのか、また日々行っている様々な活動が地球環境の維持に繋がっていることを児童に丁寧に指導し、子供たちの興味関心を高める。</p> <p>・「SDGs」コーナーを設けたり、持続可能な社会がキーワードの本をまとめて置いたりして意識させていく。</p>
	<p>B1 体力の向上を目指し、進んで活動している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が水泳検定や縄跳び検定等の体力づくりに向けて努力するよう指導を工夫している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 水泳検定、縄跳び検定および、縄跳び大会を実施することで、児童が自らの体力向上を目指し、目標を持って、進んで活動できるようにする。</p> <p>② うつのみや元気っ子プロジェクトミニマム達成に向けて運動プログラム集を活用する。児童の実態を次年度に引き継げるよう情報の共有の仕方を工夫する。</p> <p>③ 地域学校園の課題である「筋持久力」を向上できるよう、サーキットレーニング等を通して体力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 83.5 教職員 100.0</p> <p>・児童の肯定的回答率が昨年度よりも7.4ポイント減少する結果であった。</p> <p>・コロナ禍により、水泳検定を実施することができなかったことや、体育の授業や休み時間の外遊びにおける運動制限があったことなどが要因と思われる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き各種検定への取組や、全校児童による縄跳び大会を実施することで、目標に向かって努力する大切さを指導していく。</p> <p>・地域学校園の課題である「投力」「筋持久力」の向上に向け、年間を通して指導しながら体力の向上を図っていく。</p>
<p>目指す学校の姿</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 特別な支援が必要な児童の実態把握と、校内支援委員会やケース会議、情報交換会などを通じた情報の共有に努め、職員間で連携を図って適切な支援を行う。また、必要に応じて外部機関との連携を図る。</p> <p>② 家庭とも連携が図れるよう、適切な保護者対応に努める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 教職員 100.0</p> <p>・校内教育支援委員会で、特別な支援が必要な児童の実態の共通理解を図るとともに、日常的に情報共有に努めた。また必要に応じてケース会議を開き、児童・保護者のニーズに合わせた支援を行うことができた。</p> <p>・年2回の個人懇談の他にも日々保護者と連携を取り、保護者の希望に対して適切な対応に努めることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・次年度も全職員で児童の実態把握と共通理解に努めながら、特別な支援が必要な児童が生き生きと安心して学校生活を送れるように努める。</p>

<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 児童集会等でいじめは絶対許されないことであるという指導を行う。</p> <p>② 教育相談やアンケートを実施し、いじめの起こらない環境づくりを推進する。</p> <p>③ 児童の些細な変化を見逃さないように教職員間で情報を共有し指導にあたるようにする。</p> <p>④ 学校だより等各種たより及び学級懇談会等を活用し、いじめアンケートの結果など、本校のいじめ防止の取組について情報を発信するとともに、各家庭と積極的に児童の様子などを情報交換する。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 99.0 保護者 91.2 地域 100.0</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度は児童、保護者、地域住民の肯定的回答率が 90%を越えた。児童・地域住民と、保護者の肯定的回答率に若干の差が見られる。</p> <p>【次年度の方針】 ・いじめ根絶集会では、児童に紹介する本を司書教諭と協力しながら、より児童の実態に合ったものを選ぶ。 ・児童の学校での様子、些細な行動の変化、気になる表情など、教職員間だけでなく家庭とも連絡を密に取りながら情報を共有することで、いじめの防止、早期発見につなげていく。</p>
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学級・児童に関する情報交換会を職員会議後に開き、全教職員で情報を共有し、対応について共通理解を図る。</p> <p>② 児童が活躍できる場の設定や、努力やよさを認め励ます教育を推進する。</p> <p>③ 欠席児童に対する、電話連絡や家庭訪問など欠席が長期化しないように、初期対応を徹底する。</p> <p>④ 教育相談や個人懇談で得た情報は詳しく記録に残し、児童理解のために有効に活用していく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 98.1 保護者 96.7 教職員 100.0</p> <p>・全教職員で情報交換を行うことで児童理解が深まり、共通理解したことをそれぞれ学級経営に生かすことができた。</p> <p>・学級活動や「特別の教科 道徳」、朝の会や帰りの会といった特別活動の時間を活かし、互いのよさを認め合ったり、クラス全員で関り合うような活動を設定したりしたことで、児童の自己肯定感を高めることができた。</p> <p>・欠席した児童への連絡を確実に行うことで、児童や保護者とのよりよい関係を築くことができた。</p> <p>・教育相談や個人懇談を通して得た情報を記録に残すことで、教職員間で情報を共有し、より児童理解を深めることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・①～④の取組を継続して確実に実施し、学級経営に生かしていく。</p>
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 各関係機関と連携し、児童や保護者の実態を把握する。</p> <p>② 必要に応じて、日本語指導や学校生活の適応への支援を行う。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 教職員 100.0</p> <p>・各関係機関と連携し、児童や保護者の実態を把握することで、特別な支援を必要とする児童等に適切な支援をすることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・本年度の引き続き、各関係機関と連携し、児童や保護者の実態を把握するようにしていき、児童の実態に応じた適切な支援ができるように努める。</p>

<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校生活において、一人一人が生き生きと達成感を実感できるような活動の場を意図的に設け、自己肯定感の向上を図る。</p> <p>② 学校生活の様々な場面で縦割りによる交流活動の時間を工夫し、活動のめあてにあった支援を加えながら異学年でのふれあいの充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 96.1 保護者 100.0 地域 100.0 教職員 95.5</p> <p>・今年度は縦割り班活動が難しく、異学年でのふれあいは例年に比べ減ってしまったが、児童の肯定的回答率は昨年度と同程度であった。このことから、達成感を実感できる活動の場の設定が維持できていると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も、異学年でのふれあい活動や、達成感を実感できるような活動の場を設け、自己肯定感の向上に努める。</p>
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなどきめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 少人数のよさを生かし、一人一人のつまずきに応じた個別指導を行うとともに、習熟度別学習、TT、かがやきルームの活用など学習形態を工夫し、一人一人を大切にされた指導に努める。</p> <p>② 朝の学習や昼の英会話タイムを2人体制で行い、一人一人のつまずきに応じた指導を行う。</p> <p>③ 分かる授業の実現に向けて、学習のめあてや振り返りを大切に扱う。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 98.1 保護者 94.6 教職員 100.0</p> <p>・学校内の取り組みを公開する機会は減ったが、保護者の肯定回答率にほぼ変動がないことから、児童を通して、授業での指導の様子が保護者に伝わっていると考えられる。</p> <p>・全体的に見て、肯定的な意見が多く、維持できていることから、小規模特認校の強みを生かすことができていると考える。</p> <p>【次年度の方針】 次年度も、指導に関わる各教員が、情報を共有しながら、一人一人を大切にされた指導に努める。</p>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 専門的な業務において、学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携・協働しながら業務を進めるように努める。</p> <p>② 教職員が教育活動において役割分担などを見直し、同僚性を発揮しながら取り組めるようにする。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 教職員 100.0</p> <p>・学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携・協働しながら業務を進められた。</p> <p>・教職員が役割分担などを必要に応じて見直し、同僚性を発揮しながら取り組んだ。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き学校に関わる職員全員がチームとなり、より充実した教育活動を行えるように協力して業務に取り組んでいく。</p>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 出退勤の記録を付けることで勤務時間について意識する。</p> <p>② PDCAサイクルによる教育課程の振り返りや、学校行事の精選、反省に基づくスリム化・効率化につながる改善を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 教職員 100.0</p> <p>・出退勤の記録を付けることで勤務時間について意識して業務に取り組んでいた。</p> <p>・PDCAサイクルによる教育課程の振り返りを行い、学校行事の精選、反省に基づくスリム化・効率化につながる改善を図れるよう情報を集め、次年度の計画に活かせるようにしている。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き教職員が勤務時間を意識して、業務に取り組んだり、効率化を図ったりできるよう取り組んでいく。</p>

<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。」 ⇒児童(5・6年)・保護者・地域・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 小中合同あいさつ運動、小中乗り入れ授業、6年生の中学校訪問など小中合同で行う取組を確実に実施し、活動の様子を各種便りやホームページで公開するよう努める。</p> <p>② 地域学校園内での各校の学校課題等の研修に積極的に参加し、協力して研修を進めていく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 84.4 保護者 95.5 地域 100.0 教職員 95.5</p> <p>・乗り入れ授業は児童にとって中学校を知るためや中学校の先生に6年生の児童のこを知ってもらうために効果的な活動であった。</p> <p>・コロナ禍での実施だったので、目に見える形で実施できたことは、小中合同あいさつ運動と中学校からの乗り入れ授業のみだった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・限られた機会に有効な活動が行えるように、内容の検討やその他の連絡調整を行っていく。</p> <p>・引き続き地域学校園の各校の学校課題等の研修の参加や協力の仕方を3校と連絡を取り合い、可能な方法を見付け、研修を進めていくようにする。</p>
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域学校協働活動推進委員会を中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。</p> <p>② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の教育資源を活用した教育活動を行う。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 96.1 保護者 98.9 地域 100.0 教職員 100.0</p> <p>・地域学校協働活動推進委員会を中心に各種ボランティアにご協力いただき、学校により良い教育環境づくりができた。感染症対策についても地域、保護者ともにご理解いただき、円滑に実施することができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き地域学校協働活動推進委員会を中心として協力いただき、教育環境や教育活動の充実を図っていく。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 孝子桜まつり・古賀志山清掃登山・地域合同運動会などの行事を、学校・保護者・地域が連携して実施する。</p> <p>② 地域学校協働活動推進委員会を中心に学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深め、開かれた学校づくりに努める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 96.1 保護者 98.9 地域 100.0 教職員 100.0</p> <p>・今年度は臨時休業とコロナ禍の影響がある中、学校・保護者・地域で協力・連携しながら、感染対策を講じ、実施してきた。</p> <p>・地域学校協働活動推進委員会と連絡をとり、学校を支援するボランティアを募り、様々な協力をいただいた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・今後も継続していけるよう地域学校協働活動推進委員会と協力・連携し、開かれた学校づくりを推進していく。</p>

<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 児童や利用者が安全に利用できるよう、毎月の安全点検を確実に実施し対応が必要なところは、迅速に処理する。</p> <p>② 学校施設利用者や保護者へ、来校時の安全面での注意点やAEDの設置場所の周知、災害時の避難など危機に対応できるよう情報を提供する。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 保護者 96.8 地域 96.8 教職員 100.0</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も安全点検を実施するとともに、不具合に気付いた時には、迅速に対応する。 ・ホームページや各種お便り、学級懇談会等を活用し、万が一に備えた安全に関わる情報を提供する。</p>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① ICT機器や実物投影機・パソコンなどや、児童が活動で使う図書資料等を準備する。</p> <p>② ICT機器や図書資料を、授業等で児童が使用しやすくし、十分に活用できるよう、情報を提供したり、校内研修を行ったりする。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 94.2 保護者 89.8 教職員 100.0</p> <p>・ICT 機器や実物投影機が各教室に配置され、TV やパソコンと合わせて ICT を活用した授業が多く行われた。また、新しい教科書に掲載されている本を購入し、図書館における配架を工夫して児童が手に取りやすいようにした。</p> <p>【次年度の方針】 ・ギガスクール構想が始まるにあたり、タブレットを適切に管理するとともに、必要なものは適宜整備する。</p>
<p>B2 学校は、読書活動を積極的に推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校の読書は充実し、教職員は子供たちが読書に興味を持つように指導を工夫している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 読書活動の充実を図るために、朝の読書タイムを充実させ、読み聞かせボランティア等による読み聞かせなどを行う。</p> <p>② 教科や総合的な学習等、学習と関連のある図書を意識的に紹介し、様々なジャンルの本への興味づけを行う。</p> <p>③ 図書館便りを更に充実させ、読み聞かせの様子や読書活動の重要性を保護者へも知らせる。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率 児童 87.4 保護者 97.9 教職員 100.0</p> <p>・読書週間では、読書しおりや図書集会等の取組を通じて普段借りないジャンルの本にもチャレンジする児童が多く見られた。図書館便りではそうした読書週間の様子や 4 年生が作成したポップを図書館内に掲示したこと等、本校の学校図書館の取組を数多く紹介した。</p> <p>【次年度の方針】 ・貸出期間を延長したり、パソコンルームと併用した調べ学習を行ったりと充実した活動を続けていきたい。</p>

本校の特色・課題等	<p>B3 日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。</p> <p>【数値指標】          全体アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」          ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 英語や日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科・外国語活動の年間指導計画について、必要に応じて内容の精選・検討をしていく。</p> <p>② 英会話タイムの充実と継続を全校体制で行う。</p> <p>③ 「英会話の時間」・「外国語活動」については、教科化による、中学校へのつながりを意識した研究を推進する。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率          児童 90.3 保護者 99.0 教職員 100.0          ・児童の肯定的回答率が、昨年度よりも3.6ポイント減少した。          ・コロナ禍により、コミュニケーション活動に制限が出てしまい、例年同様の活動ができないものがあった。</p> <p>【次年度の方針】          ・会話科(ことばの時間)、外国語活動、外国語科の年間指導計画を再検討していく。          ・今後もAETを中心に、英会話タイムの充実を図っていく。          ・学校だよりや学年だより等を使い、どのような学習を通して何を身につけることができるようになってきたかの情報を発信していく。</p>
	<p>B4 学校と地域・文化人と連携した学校教育活動を推進している。</p> <p>【数値指標】          全体アンケートの「教職員は、保護者や地域住民・文化人と連携、協力した教育活動に積極的である」          ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域学校協働活動推進委員会を中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。</p> <p>② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の人々を積極的に講師として迎え入れた活動を行う。</p> <p>③ 豊かな感性を育てるため、芸術・文化の分野で活躍されている文化人の先生方による授業を行う。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率          児童 94.2 保護者 99.0          地域 100.0 教職員 100.0          ・地域協議会の地域学校協働活動推進委員会を中心に、地域や保護者と連携させながら活動を展開してきた。          ・豊かな感性を育てるため、芸術・文化の分野で活躍されている文化人の先生方による授業を行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】          ・引き続き学校と地域・文化人と連携した学校教育活動を推進していく。</p>
	<p>B5 給食農園へのかかわりや農業体験学習を行い、食育指導との連携を図っている。</p> <p>【数値指標】          全体アンケートの「農業体験活動を通して、大地の恵みに感謝する心を育てると共に食育の充実を図っている。」          ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 給食農園で地域の方との連携を深め、活動を充実させることで、食に対する関心を高めたり、感謝の心を育成したりすることを目指す。</p> <p>② 地域の食材を積極的に利用し、安全でおいしい給食や特色ある給食を実施する。</p> <p>③ 給食の時間に、給食農園で取れた野菜や米、地域の食材を紹介することで、感謝の気持ちを育て、食農教育の充実を図る。</p> <p>④ 食育だより・給食だより・保健だよりを充実させ、保護者へも啓発していく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率          児童 96.1 保護者 96.9          地域 100.0 教職員 100.0          ・今年度は、交流給食や親子給食を実施することができなかった。また、本校ならではの、ランチルームでの全児童・全職員での給食も実施できなかった。          ・このような状況の中でも、給食農園で取れた野菜や米を給食に使用し、それを給食委員の校内放送で毎日の給食のメニューと地元の食材の紹介を行うことができた。          ・田植えは実施できなかったが、稲刈りは例年通りの方法とは違った形で無事に実施できた。米を収穫する過程に触れることで、大地の恵みに感謝する心をもつことに繋がった。</p> <p>【次年度の方針】          ・次年度も、交流給食やランチルームでの給食が実施できないと予想されるので、何か工夫が必要だと考える。          ・また、作ってくれる人や大地の恵みへの感謝の気持ちをもつような働きかけが必要。</p>

## 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

総合的にみると、ほぼすべての項目で数値指標を達成することができた。また、全市で共通の25項目においては、児童は22項目、教職員、保護者、地域住民の回答はすべて市の平均より数値が上回っており、望ましい状況である。

児童の評価では、3項目で市の平均に達していなかった。また、昨年度の数値に比べると、多くの項目で肯定的回答の割合が下がっている。年度当初から続いた臨時休校という異例の生活の影響が多少なりとも考えられる。しかし、どの項目も高い肯定的な回答割合であり、数値目標からみると1項目を除いた項目で目標を達成している。多くの児童が学校運営や学習指導を肯定的にとらえたとともに、主体的積極的に学校生活を送っているものと考えられる。保護者の評価では、22項目のうち21項目、地域住民の評価でも、全項目が数値目標を達成しており、学校の取組や児童の学習、生活状況に対して、肯定的な評価がなされている。

特に達成度の高い項目(達成度95%以上)として、児童アンケートでは、「時と場に応じたあいさつをしている」、「学校に活気があり、明るくいいきとした雰囲気」、「不登校を生まない学級経営」、「いじめが許されない行為であることをしっかり指導する姿」、「教職員の分かりやすい授業やきめ細やかな指導」など8項目があり、教職員の一人一人を大切にしたり関わりや、学習指導を中心とした取組が児童に評価されている。

保護者アンケートでは、「学校に活気があり、明るくいいきとした雰囲気」、「不登校を生まない学級経営」、「家庭・地域・企業との連携」、「文化人の先生方と連携した教育活動」、「農業体験活動を通して大地の恵みに感謝し食育の充実」等11項目となっており、本校の小規模特認校としての取組を評価していただいていると思われる。地域住民アンケートでも、児童・保護者と同様の項目をはじめ「農業体験活動を通して大地の恵みに感謝し食育の充実」の小規模特認校の継続を中心に多くの項目が達成度100%となっており、学校の取組を評価していただいている。

本校の重点目標である「会話科」「食農教育」「文化人の先生方との特色ある活動」の具体的な取組みについては、すべての項目で肯定的な評価をいただくことができた。学校の取組みが保護者や地域にも理解されていると考えられる。また、昨年度の結果から重点としてきた「あいさつ」については、肯定的回答率が上がった。今年度の取組から、児童の意識も高まり、実践したことへの達成感を感じることができたと考えられる。

今年度、肯定的回答率が設定した数値指標に満たなかった項目、次年度改善や充実をさせたい項目は、下記のとおりである。

### ◇ 肯定的回答率の低かった質問項目

「児童生徒は宇都宮のよさを知っている。」(【保護者】数値目標 80% 肯定的回答率 71.9%)

#### 〈改善に向けた基本方針〉

保護者の回答率は、昨年より上がったものの数値目標の80%に届かなかった。児童の肯定的回答率は、昨年より下がり 83.5%となった。今年度から宇都宮学が始まり、社会科を中心に総合的な学習の時間や生活科などで、宇都宮市や地域について、発達段階に応じて触れたり、学んだりするようになった。今後、今年度の実施内容を検討し来年度よりよいものにし、学習内容を校内に掲示したり、学年だより等で保護者に知らせたりし、啓発を図ってきたい。

「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」【教職員】77.3% 【児童】88.3%

#### 〈改善に向けた基本方針〉

児童については昨年とほぼ変わりのない肯定的回答率であるが、教職員については、やや下がっている。

「持続可能な社会」とはどんな社会のことをいうのか、自分たちの生活が地球の環境などつながっていることをしらせ、興味関心をもたせていきたい。そのためにも教職員も同様に取り組んでいく必要がある。

### ◇ 昨年度に比べて肯定的回答率が下がった質問項目

「児童は、夢や希望に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」【教職員】90.9% 昨年度より-9.1%

【保護者】87.5% 昨年度より+7.5% 【児童】84.5% 昨年度より-9.4%

#### 〈改善や充実に向けた取組〉

あきらめずに粘り強く取り組むことについては、どの回答者からも数値目標を超える肯定的回答率であった。しかし、保護者の肯定的回答率は昨年度より増加しているが、児童と教職員の肯定的回答率は昨年度より下がっている。学習や生活について目標をたてはいるが、それに向かって努力をしているという実感がともなっていない。学期末だけでなく定期的に自分の目標について振り返る機会を設け、達成度から見直したり、教職員から称賛されたりするようにしていきたい。

## 7 学校関係者評価

### 各委員から 評価項目の結果について

- ・一人一人へのきめ細やかな指導やいじめ対策、学校・家庭・地域の連携については、少人数であることのよさが、肯定的回答率の高さにつながっている。今後もこの学校のよさを生かした学校運営や、効果的な取り組みを行ってほしい。
- ・「目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる」については、少人数であることで競争心が薄くなっているのだろうか。
- ・今年度は新しい生活様式への変化に対応するだけでも大変だったと思うので、その中で何かを続けていたり、達成感を感じたりすることが難しかったのではないだろうか。
- ・目標のたて方や取り組み方、振り返り方を見直していくとよいのではないか。
- ・「持続可能な社会への関心」については本校は農園の有機栽培や学校を取り巻く環境など、具体的な事例が身の回りにたくさんあるので、それらを生かしてはどうか。
- ・小学生の子供たちに将来の社会に多くを求めることはまだ早く、身近な事例から理解し、中高生になってから考えさせても遅くない。
- ・SDGSの15「陸のいのちを守ること」を意識し古賀志山や唐沢溜などの自然環境を生かした教育活動を今後も続けてほしい。

### 地域協議会各部会に関すること

- ・今年は桜まつりや食育フェアなど大きな行事が中止になり、在校生の保護者からそれらが再開したとき運営できるか不安などの声を聞く。行事についてうまく引き継がれていくとよいと思う。
- ・ボランティアに関して、仕事をしている保護者も多く、協力できる方がやや減ってきていると感じている。短時間でもスポットで多くの方に係わってもらえるような参加しやすい活動について模索していく必要があると考える。
- ・城山西小学校創立150周年に向けた準備委員会の設置について検討したい。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

次年度へ向けて次のような方策を考えている。

- 1 「道徳科の授業」を柱とした豊かな心を育む教育の推進
  - ・道徳科の授業の充実
  - ・認め励ます教育や、縦割り活動、体験的な学習の推進
  - ・「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」活動を通した、たくましさの滋養
- 2 「英会話の時間」の蓄積を活かした「外国語科・外国語活動」のカリキュラムの再編成と実践
  - ・「英会話の時間」で培ってきた「話す」「聞く」を中心としたコミュニケーション能力を土台とし、「外国語科・外国語活動」の指導内容を網羅したカリキュラムの再編成と実践
- 3 「運動の日常化」と「体幹を鍛える運動の定着」による体力向上の推進
  - ・各種検定カードの活用や教科体育におけるサーキットトレーニングの時間の設定、休み時間の運動の推奨
  - ・妻木律子先生による「体幹を鍛える運動」の指導と定着
- 4 「地域とともにある学校」づくりの推進
  - ・地域協議会との連携の充実
  - ・持続可能で発展的な行事内容の検討と実践
- 5 学びに向かう力の育成
  - ・教材やICT等を効果的に活用しながら、「はつきり」「じっくり」「すっきり」を踏まえた授業の展開
  - ・教師のコーディネートにより、児童同士のよさを生かしながら課題解決に取り組む態度の育成
  - ・安心して考えを伝え合い、互いに高めあえる学級集団の育成
- 6 全教職員体制による児童指導の充実と児童理解の推進
  - ・日々、児童一人一人の的確な状況把握と保護者との連携
  - ・いじめ根絶に向けた教職員一丸となった取組と、児童が解決に向けて自主的に行動できる態度の育成
  - ・教育相談体制の充実を図りながら、不登校の未然防止や組織的な対応の充実